

【必修問題 鎖骨の診察・整復法】

【必修問題 上腕骨外科頸外転型骨折診察・整復】

問 1. 上腕骨外科頸外転型骨折の後でよくみられるのはどれか。(第 28 回)

1. 骨化性筋炎
2. ズデック (Sudeck) 骨萎縮
3. 関節拘縮
4. 阻血性骨壊死

問 2. 上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作で正しいのはどれか。(第 28 回)

1. 第 1 助手は牽引用の帯で外方に引き肩を固定する。
2. 第 2 助手は末梢牽引をしながら内転させる。
3. 術者は両手で遠位骨片を内方へ圧迫する。
4. 術者は遠位骨片を前方に圧迫する。

問 3. 上腕骨外科頸外転型骨折で正しいのはどれか。(第 29 回)

1. 三角筋の膨隆は消失する。
2. 遠位骨片端は外方へ向く。
3. 近位骨片は軽度内転する。
4. 遠位骨片は前外上方へ転位する。

問 4. 上腕骨外科頸外転型骨折の受傷直後患者に対する介助方法で誤っているのはどれか。(第 29 回)

1. 上腕部を胸壁に密着させる。
2. 前腕部を把持し安定させる。
3. 衣類を患側から脱がせる。
4. 上肢と頭部を把持し背臥位とする。

問 5. 上腕骨外科頸外転型骨折の整復で第 1 助手の牽引帯の牽引方向はどれか。(第 30 回)

1. 上方
2. 下方
3. 前方
4. 外方

問 6. 上腕骨外科頸外転型骨折の整復で改善するのはどれか (第 30 回)

1. 前内方凸変形
2. 前外方凸変形
3. 後内方凸変形

4. 後外方凸変形

問 7. 上腕骨外科頸外転型骨折で誤っているのはどれか。(第 31 回)

1. 肩峰下に上腕骨頭を触知
2. 三角筋部に腫脹著明
3. 軽度の限局性圧痛
4. 軋轢音を触知

問 8. 上腕骨外科頸外転型骨折で誤っているのはどれか。(第 32 回)

1. 前外方凸の変形がみられる。
2. 肩関節の可動域が制限される。
3. 軸圧を加えると痛みが増強する。
4. 広範囲に皮下出血斑が出現する。

問 9. 上腕骨外科頸外転型骨折の診察で誘導後の手順はどれか。(第 33 回)

- ①整復の準備
- ②損傷部の確認
- ③全身状態の観察

1. ①→②→③
2. ①→③→②
3. ②→①→③
4. ③→②→①

問 10. 上腕骨外科頸外転型骨折で誤っているのはどれか。(第 33 回)

1. 三角筋の膨隆は消失する。
2. 上腕軸の骨折端部は内方へ向く。
3. 嚙合骨折では自動運動が可能である。
4. 皮下出血斑は上腕内側部から前胸部に出現する。

問 11. 上腕骨外科頸外転型骨折の整復で第 1 助手・第 2 助手の整復操作にないのはどれか。(オリジナル問題)

1. 直圧操作
2. 外転操作
3. 内転操作
4. 牽引操作